

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) ①授業改善 ②つまずき解消 ③家庭学習と授業をつなぐ ④補充学習	①研修担当, 学力向上担当 ②各担任 ③研修担当, 学力向上担当, 各担任 ④学習支援員, 各担任, 全職員	①全国学力・岡山県学力調査の問題分析から見える授業改善についての手立てを話し合い, 年間通じて効果を検証し, 改善を目指す。 ②苦手分野の「書く活動」について系統だった指導を行う。基礎・基本の力をしっかり身につけ活用力に生かせるようにする。 ③自主学習の推奨や児童の学習の様子を提示する。 ④隙間時間の学習サポート・放課後学習サポートの推奨。	①8月中旬～ ②年間を通して ③年間を通して ④毎日・毎週木曜日	①全職員でつまずき傾向を把握し対策を考え, 日々の授業にどのようにかすが低・中・高学年間で共通して取り組む。 ②毎週金曜日の朝学習で「書く活動」を行う。フラッシュカードを授業のはじめの時間に行い漢字・計算などの基礎・基本の定着を図る。読書の奨励。 ③学習例を挙げ, 奨励し全校児童が見える所へ掲示する。自主学習ノートを「のびるノート」とし, 3年から6年まで通し番号を振り意欲とする。 ④2年生については, 給食の準備時間を使いつまずきのある子に取り出し指導を行う。3～8年生については, ①計画的に行う。 ②「減メディアカード」や学期始めの生活点検表の取り組みへの協力を保護者に呼び掛ける。	①国語や算数の授業がわかると回答する児童の肯定的な回答が80%以上。 ②条件に合わせた文章が書ける児童が80%以上。 ③自主的に家庭学習に取り組む児童が80%以上。 ④勉強がわかる。80%以上
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各学年担任 ②生徒指導, 地域担当	①情報モラルの指導やスマートフォン, メールの使い方の指導。 ②減メディア週間の取り組み	①年間通じて ②5月, 7月, 10月, 11月, 2月	①計画的に行う。 ②「減メディアカード」や学期始めの生活点検表の取り組みへの協力を保護者に呼び掛ける。	メディアコントロールを自分でできる児童が80%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
全国 ○国語の領域別観点からみると、「書くこと」「読むこと」の領域においては, ほぼ県・全国並であった。「書くこと」本校55.6%(全国54.5%)「読むこと」本校81.5%(全国81.7%) ○国語の領域別観点からみると, 「話すこと・聞くこと」県・全国両方の平均を下回っている。「話すこと」本校51.9%(全国72.3%) ○国語の問題別結果から, 「目的や意図に応じて, 自分の考えを明確にし, まとめて書く。」本校16.7%(全国28.8%)や「話し手の意図を捉えながら聞き, 自分の考えをまとめる。」本校38.9%(全国68.2%)は低く課題がある。 ○算数の領域別観点で, 「数と計算」の領域は全国をやや上回った:本校65.1%(全国63.2%)が「量と計測」では県・全国両方の平均を下回っており課題がある。本校42.6%(全国52.9%) ○算数の問題別結果から「水の使用量が何倍か読み取る問題」の正答率はかなり高かった。本校94.4%(全国78.6%) ○算数の問題別結果から「単位量当たりの大きさをとらえ, 求め方や答えを記述し, その結果から判断する。」本校50.0%(全国62.6%)また「計算の仕方を解釈し, 減法の場合を基に, 除法に関して立ち立つ性質を記述できる」本校11.1%(全国31.1%)が低かった。 県(3～5年) ○3年 国語 基礎・活用問題とも県平均を上回ったが, 「書くこと」領域, 「作文」が弱い。自分の考えを文章に書く本校55%(県71%) 算数 活用問題での「長さ・かさ」「量と測定」領域が弱い。ある時刻から一定時間後の時刻本校63%(県70%) ○4年 国語 正答率と基礎問題は県平均と同程度だが, 「書くこと」領域, 「作文」が弱い。指定された長さで文章を書く本校36%(県50%) 算数 正答率と活用問題が県平均を下回る。「量と測定」「数量関係」が弱い。分数の数直線上で表を書く本校52%(県67%) ○5年 国語 基礎・活用問題とも県平均とほぼ同等か上回ったが, 「書くこと」領域, 「作文」が弱い。2段構成で文章を書く本校21%(県52%) 算数 活用問題が県平均を下回る。「量と測定」「数量関係」領域が弱い。十進位取り記数法の理解本校71%(県79%)	○毎日同じくらいの時刻に寝ている。(全国平均に比べ18.6ポイント高い) ○自己肯定感に関してはほぼ全国平均並み。 ○テレビおよびゲームの時間に関しては, 5年生半数以上の児童が1時間以上2時間未満となっており, 県平均より20ポイント以上高いが, 4時間以上という児童も若干名いる。 ○家庭学習時間に関しては, 1日2時間以上の割合は13ポイント低い, 1時間以上に限れば全国平均並み。 ○学校に行くのが楽しいと答えている児童は, 全国平均に比べ9ポイント高い。 ○学校の決まりを守っていると答えた児童は, 6.7ポイント高い。 ○今住んでいる地域の行事に参加している割合は全国よりも, 30ポイント高い。 ○読書が好きである。新聞を読んでいる児童の割合が, 特に新聞に限れば20ポイント近く低い。 ○学校の中で話し合う活動を通じて, 考えを深めたり広げたりする活動ができていないと思っている児童が全国平均に比べ18.5ポイント高い。 ○国語の授業で目的に応じて考えを話したり, 書いたりできていないと考える児童が全国平均に比べ, 11.5ポイント高い。 ○国語における書く活動に関して苦手と考えている児童が, 延べ15～20ポイント高い。

成果 課題

○朝学習や家庭学習の活用を通して, 現在の学習内容以外の既習事項の復習に取り組み, 効果が現れている学年が多い。
 ○授業公開等の校内研修の充実を図り, 「あめ・まとめ」のある授業づくりに取り組み, 学習内容の定着が見られている。
 ○ペア学習やグループ学習を取り入れた授業づくりを行い, 自分の考えを書いてまとめることに取り組んでいる。
 ○学校全体で統一した自主学習ノートの取り組みを充実させ, 家庭学習の時間や内容が改善しつつある。
 ○減メディア週間や生活点検週間の取り組みをPTAと連携して定期的に取り組み, 学習習慣意識に少しづつ変化がみられている。
 ○中学校の生徒指導重点「あいさつ 掃除 時間を守る」とつなげた取り組みが定着している。
 ○問題データベースを全学年で活用し, 学習内容の定着が図られ始めた。
 ○基礎的な学習内容の定着は図られつつある。

○全学年を通して, どの教科でも「書くこと」に課題がある。特に条件に沿って書くことに弱さが見られる。
 ○全国学テ「国語」でも, 聞き取った意図をまとめた提示させた条件に合わせて書くことに課題が見られた。
 ○読書量の個人差が大きく, また, 日常的に新聞等の活字に触れる児童も少ないため, 長文や問題を読みこなす力に課題があると思われる。
 ○基礎的な計算の力についてきたが, 文章問題を理解することや言葉, 文で自分の考えを説明することに課題がある。
 ○全国学テ「算数」では, 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に, 除法の計算の仕方についてまとめること, どのようにするかを書くことが全国平均を大きく下回っている。低学年期から, 算数用語を適切に使えるようにしてはならない。
 ○話し合い活動への苦手意識があり, 国語や学活を始めてとして様々な教育活動の中で取り組む必要がある。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
「読む」書く力の向上	学年末	「書くことは苦手である」児童の減少 「読書が好き」70%	毎週金曜日の朝学習で, 「書くこと」に特化したプリントをデータベースから用意し取り組む。授業での「書く活動」の充実を図る。読書週間等を活用した読書習慣の定着を図る。					
「考え方の説明」話し合い活動」充実	学年末	「授業の中で自分の考えを持ち, 交流する時間がある。」80%以上	授業5を大切にしながらも特に②自分で考え, 表現する時間の確保をしていく。ペアやグループなどの話し合い活動を積極的に取り入れるとともに, 自分の考えを書いてまとめることに更に力を入れていく。フラッシュカードで算数用語に取り組む。					
家庭学習の定着と充実	10月 11月 2月	減メディア週間のカードの提出率85%以上	中学校の定期考査期間に, 保護者にも呼びかけ地区全体で減メディアと読書や家庭学習の充実を図る。学級便り, 学校便り等や懇談による呼びかけとPTAと連携した啓発を行う。のびるノート(自主学習ノート)を玄関に掲示して内容の充実を図る。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組 保護者・地域へ理解・協力を求めること

○中学校の定期テスト週間から始めて, 家庭学習の充実, 減メディアの取り組みを行う。
 ○「チャイムスタート」に取り組む。(3分前入室, 1分前着席。)

○減メディア週間, 学期始めの生活点検週間の保護者への協力をよびかける。
 ○個に応じた支援, 体験活動の充実に向けた学校支援ボランティアのお願いする。
 ○PTAとあいさつへの取り組みを連携する。